練学歯だより No.24

練馬区学校歯科医会広報
http://www.nerigakushi.tokyo
2019年3月 発行

目　次

p.1 …… ご挨拶
練馬区学校歯科医会会長　草柳　英二

p.2 …… 平成30年度「練馬区よい歯・よい子のつどい」
河奈　文彦

p.3 …… 第69回関東甲信越静学校保健大会に参加して
練馬区立豊玉第二小学校　古田　裕司

p.4 …… 平成30年度全国学校保健安全研究大会
練馬区立豊玉第二小学校　古田　裕司

p.5 …… 第82回全国学校歯科保健研究大会in沖縄
練馬区立旭丘小学校　沼口　隆二
都立田柄高等学校　水野　重美
練馬区立泉新小学校　金田　和彦

p.8 …… 平成30年度練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会
佐藤　和典

p.9 …… 第37回練馬区学校保健大会　名古谷　昌宏

p.10 …… 学校紹介　草柳　英二
南　誠二

p.12 …… 新入会員の声
練馬区立開進第四小学校　穂坂　康朗
練馬区立大泉第一小学校　佐藤　公男
練馬区立大泉南小学校　吉川　剛太
練馬区立貫井中学校　黒田　耕太郎

会長挨拶

練馬区学校歯科医会会長　　草柳　英二

日頃より会員の先生方には会務にご協力して頂き感謝申しあげます。

おかげ様をもちまして本年度もすべての業務は、順調に推移しております。

学校歯科医会の歴史を紐解いてみますと、明治30年に文科省は、学校清潔法の基礎を作成し、東京市で学校歯科検診が行われた。どうもこのへんがスタートラインのようです。

その後、学校歯科医法が明治39年に公布され、大正7年には東京市内の9か所で学童歯牙検診が行われました。昭和2年6月3日に「東京市学校歯科医会」設立総会が、開催されました。昭和6年6月22日には学校歯科医および幼稚園歯科医会勅令144号が公布され、東京市を中心に「日本聯合学校歯科医会」が設立、また全国学校歯科医大会が東京市で開催されました。その後多くの先輩諸氏のご尽力により幾多の経緯をたどり現在の学校歯科医会に至っております。まさに一世紀強に及ぶ経時的成果であります。

私たち練馬区学校歯科医会の歴史は、練馬区歯科医師会が昭和22年8月1日に設立、学校保健活動も開始されました。昭和３０年に練馬区学校歯科医会は、第1回定時総会を開催し正式に学校歯科医会が発足し、約65年もの長期に亘る実績を有する学校歯科医会へと成長しました。現在、本会は会員数115名、小学校65学校歯科医・中学校35学校歯科医・高校９学校歯科医・特別支援学級３学校歯科医・幼稚園３学校園医の構成です。また本会は、練馬区の児童・生徒の「歯と口の健康」を堅持するために練馬区教育委員会と密に連携を保ち学校保健に関する多くの事業を展開しております。時流は「治療から予防へ」と推移し、平成30年度文科省の報告で12歳児におけるDMF指数は0.74と発表されました。われわれの方針は「給食後の歯ブラシの推奨、フッ化物洗口法」を教育委員会と連携し推し進めてゆく所存です。本年度より本会は、教育委員会を通じ小・中学校に毎年歯ブラシを贈呈してゆきます。本年の特別報告として、「学校保健と給食後の歯みがきのアンケート調査・中学校における給食後の歯ブラシと歯肉炎について」の２つの調査論文を日本学校歯科医会会誌124号に掲載しました。現在「特別支援学級のアンケート調査」の論文化も進めております。本会のホームページですが、都内学校歯科医会のホームページの中でも最新の表示システムを有し、一早く更新、レスポンシブweb対応しておりますのでスマホまたは、タブレットで一度ご覧下さい。

今後も練馬区学校歯科医会は、練馬区の児童生徒の「歯と口の健康」を堅持するために学校歯科医の活動指針を基本に学校歯科保健活動に尽力をしてゆく所存です。

平成30年度「練馬区よい歯・よい子のつどい」

田柄中学校　河奈　文彦

平成30年6月23日（土）午後1時半から練馬区役所地下多目的会議室に於いて、平成30年度「練馬区よい歯・よい子のつどい」が開催されました。

前川燿男練馬区長、市川弘之練馬区歯科医師会会長の挨拶の後、平成29年度の3歳児歯科健康診断で歯と口の健康状態が良かったお子さんとご家族の方も同様に、歯と口の健康状態の良いファミリーを表彰する「歯（ハ）ートファミリーコンクール」の表彰式が、行われました。次に、練馬区内小学校の児童から応募が有った図画（1～ 3年生）・ポスター（4～6年生）の内、優秀な作品を表彰する「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」の表彰式が、行われました。

表彰式終了後、練馬区公式アニメキャラクター「ねり丸」と記念写真の撮影が、行われ午後3時に無事終了しました。

今年度から「ねり丸」のイラストの入った幟を作成し、多目的会議室入り口と受付に立てられ、来場者を迎えました。

練馬区学校歯科医会は、練馬区内小学校・中学校に図画・ポスターコンクールに応募するよう働きかけを行い、「よい歯・よい子のつどい」では、草柳会長が来賓として壇上に上がりました。その際、草柳会長より練馬区学校歯科医会から給食後の歯みがきに役立てて貰えるように歯ブラシを小・中学校に贈呈する旨を伝えた所、前川区長より感謝のお言葉を頂きました。

式典

インタビュー

表彰

インタビュー

第69回関東甲信越静学校保健大会および歯科職域部会

豊玉第二小学校　古田　裕司

平成30年8月23日、群馬県高崎市の群馬音楽センターにて標記大会が、開催されました。本会よりも多数の理事と学校医が、参加しました。

まず、大会の特別講演としてアルベールビル冬季五輪スピードスケート銀メダリストの黒岩敏幸先生の講演が、ありました。

黒岩先生は、群馬県嬬恋村のご出身です。

嬬恋高校時代には、インターハイで活躍し日大経済学部時代には、ワールドカップで活躍されました。

ミサワホーム入社後、アルベールビル・リレハンメル・長野とオリンピック三大会連続出場の偉業を達成されました。

2002年に現役引退され、その後は指導者として各界で活躍されてます。

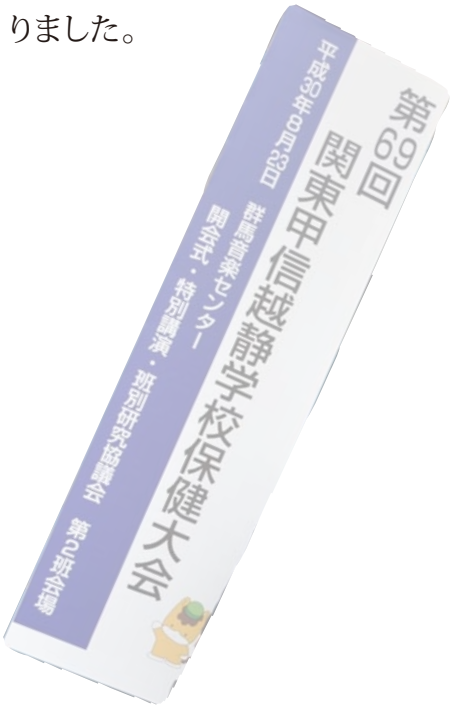
次に、班別研究協議会に移り、第4班の学校歯科保健分野は、会場を高崎シティーギャラリーコアホールに移して行われました。

「歯・口の健康づくりの日常化を目指す学校歯科保健指導の在り方」と「家庭及び地域社会との連携による歯科保健活動の在り方」について、歯科医師や養護教諭や一般教諭との間で熱心な協議が、行われました。

さらに、場所をホテルグランビュー高崎に移し、歯科職域部会が行われました。

熱心な協議が進む中、草柳会長も質問をし、熱気に包まれた職域部会でした。

その後、懇親会となり各地区の情報等を交換し合い、たいへん有意義な学会となりました。



残暑きびしい保健大会

平成30年度全国学校保健安全研究大会

報告：学術ＨＰ担当理事　古田　裕司

平成30年10月25日木曜日26日金曜日の２日間にわたり、平成30年度全国学校歯科保健研究大会が、鹿児島市にて開催されました。
練馬区学校歯科医会からは、草柳英二会長と古田裕司理事が参加いたしました。

１日目は、桜島の眺望が大変素晴らしい鹿児島市民文化ホールにおいて、開会式と表彰式が行われました。
開会式では、文部科学大臣代理・日本学校歯科医会川本強会長・鹿児島県歯科医師会伊地知博史会長などから、挨拶がありました。
表彰式では、文部科学大臣賞をはじめ、学校保健に功労がありました先生方の表彰が行われました。
その後、「発育期におけるスポーツの意義と課題」という演題で、日本臨床スポーツ医学会理事長川原貴先生による講演がありました。
午後４時からは、場所を城山ホテル鹿児島に移し、第68回全国学校歯科医協議会が行われました。鹿児島県歯科医師会専務理事の長田博先生の司会のもと鹿児島県歯科医師会伊地知博史会長の主催者挨拶、来賓祝辞、大臣表彰者紹介などが行われました。

次に、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児歯科学分野教授山崎要一先生より、「こんなところにも目を向けよう！スクリーニングとして重要な学校歯科健康診断」のご講演をいただきました。その後懇親会に移り、来年度開催県の埼玉県歯科医師会会長の島田篤先生によるご挨拶があり、鹿児島名産の焼酎と郷土料理をいただきながら親睦を深めました。

２日目はベストウェスタンレンブラントホテル鹿児島にて、領域別研究協議会が行われました。コーディネーターに愛知県立瀬戸高校教頭の丸山洋生先生をお招きして、養護学校の先生や小中学校の養護教諭の研究発表をもとに活発な討議が行われました。学会終了後は、城山の麓の西郷隆盛像を見学し、練馬区学校歯科医会の益々の充実を西郷さんに誓い、帰路につきました。

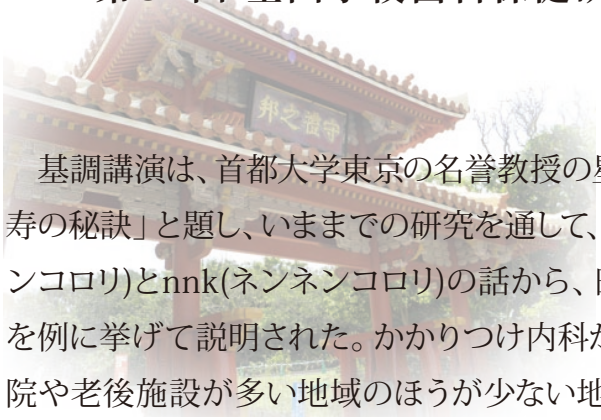
来年の第69回全国学校歯科医協議会は、2019年11月21日にさいたま市のパレスホテル大宮にて行われる予定です。

大会会場にて

全国学校歯科医協議会の様子

第82回 全国学校歯科保健研究大会in沖縄に参加して

旭丘小学校　沼口　隆二



基調講演は、首都大学東京の名誉教授の星旦二先生が「児童生徒が身につける長寿の秘訣」と題し、いままでの研究を通して、健康長寿について話された。ppk(ピンピンコロリ)とnnk(ネンネンコロリ)の話から、日本における医療の常識がおかしいことを例に挙げて説明された。かかりつけ内科がいることで、nnkが増え、地域的にも病院や老後施設が多い地域のほうが少ない地域と比較すると差が出ていると。６５歳以上を調べたところ、かかりつけ歯医者がいるか否かで、ppkに近づく割合が大きいと。今まで過ごしてきた人生で、病気にならないように生活の行動変容を求められるが、行動変容を実践した人は、良い方向に向かってはいない。その理由として、自分を抑えてしまうためストレスがたまり、内向的になることも大きな要因だと。そのためには子どもの時から健康長寿を考えていく必要がある。健康支援、つまり家族で将来の夢を語り合い、ともに遊んで運動することにより、子どもの自尊心を高め、自己効力感が高まる事になると。一番は夢を持ち、方向性を考えていくことが健康長寿につながると。要約しすぎたので、わからない文章になりました。

シンポジウムでは、長崎の広田小でお口ポカンや姿勢の悪い子が目立ち、「あいうべ」体操を実施し、雑巾がけ競争や手押し車などをすることで、首の位置が上にあがり、姿勢改善が見られた。０歳児から哺乳・捕食・一人食べそして、姿勢形成のため、体を動かすことを積極的に援助するのが大切であり、口輪筋を使うことを実践していきたいとポスターでも発表されていた。

領域別研究協議会の小学校部会では、フッ化物洗口や赤染ブラッシング指導などを如何に全校生徒に実施できるかという話に、質問が多く出た。これに直面している学校歯科医は、私を含め少なからずといると思います。校長先生の理解が一番必要で学校経営の中に入れてもらう必要があり、入学前の学校説明会の時に、学校歯科医が父兄に向かって、子どもたちの健康をいかに守っていくかの話をし、教員に対しても、４月に話をしているとの答えがありました。学校歯科医が、子どもの健康を推し量るときには、多々壁があると思います。先生方や父兄の理解、そして地域の方々との連携も必要になってくることもあります。でも一番大事なのは、沖縄宮古島で学校歯科医をされている平良和枝先生の一言に集約されていると思いました。

「それは情熱ですね」と。

第82回 全国学校歯科保健研究大会 沖縄

都立田柄高等学校　水野　重美

12月6日～7日に沖縄コンベンションセンターにて「生きぬく力」をはぐくむ歯、口の健康づくりの展開を目指してをテーマで、全国学校歯科保健研究大会が行われました。

朝7時40分に寒い羽田を発ち、10時半には暖かい那覇空港に到着。一日目は湿度もあり蒸し暑い日でした。

オープニングアトラクションとして、南原風高等学校の郷土芸能部の学生さん達の見事な舞踊があり、引き続き開会式・表彰式がありました。沖縄県歯科医師会副会長の米須敦子先生の開会宣言、日学歯会長、沖縄県歯科医師会会長、日本学校保健会会長など多くの人の挨拶があり、基調講演、シンポジウムが行われました。

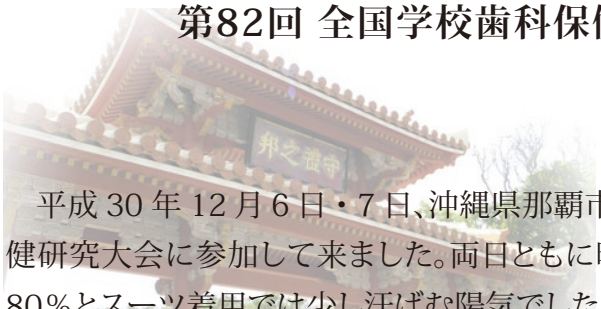
基調講演は、「ピンピンコロリの新常識」の著者である首都大学東京名誉教授の星旦二氏でした。テーマは「児童生徒が身につける長寿の秘訣」でした。児童生徒の健康長寿のためには、①口腔ケアを大切にして、やや小太りでコレステロールを高める②子どもたちの望ましい生活習慣の確立や充実した学校生活の確立③沖縄県平均寿命が相対的に低下している原因の三項目に関して、面白おかしく講演して頂きました。

シンポジウムでは、明海大の安井利一先生が座長で「学校歯科保健活動の教育力を考える」をテーマで行なわれました。生涯において健康づくりは乳児期の他律的な健康づくりから自律的な健康づくりが重要で、その時期が学齢期にあたる。言いかえれば、歯・口の健康づくりを含む学校における健康教育の在り方が国民の一生の健康づくりの方向や質を決定すると言えるという事である。その後三名のシンポジストの発表がありました。

最初に佐世保市立広田小学校の教諭福田泰三先生が「主体的で対話的な学びを通して、健口食育の学びが深まる指導法」に関しての講演がありました。口の機能を高める働きかけとして「口呼吸から鼻呼吸へ」「正しい姿勢の指導」「健口のための個別指導」を行っているという事です。健口に関しての知識を学習して実践する事で、生徒たちが将来父や母になったとき良い親になる素地が作られるであろうとの事でした。次に、宮古島の学校歯科医の平良和枝先生の「学校歯科保健活動地域連携が及ぼす教育力について」という主題で、講演がありました。日常の診療と違う学校歯科医としての立場から、生徒たちを中心においた学校・家庭・地域とのかかわりを通しての学校歯科医の役割などに関しての講演でした。最後に、行政の立場から沖縄県教育庁保健体育課の上地勇人氏が「健康・長寿おきなわの復活を目指した学校歯科保健からのアプローチ」と題し発表がありました。健康の増進には、ホームケア・プロフェッショナルケア・ヘルスアドミニストレーションが必要だという事でした。

一日目はこれらの講演で終わり、二日目は、幼・小・中・高・特別支援と分かれて領域別研究協議会がおこなわれ閉会となりました。最後も、副会長米須敦子先生の閉会宣言で終了しました。

何となくいつもより全体的に規模の小さめなような感じでしたが、内容は大変濃かったように思います。



第82回 全国学校歯科保健研究大会に参加して

泉新小学校　金田　和彦

平成 30 年 12 月 6 日・7 日、沖縄県那覇市で開催された、第 82 回全国学校歯科保健研究大会に参加して来ました。両日ともに暖冬の影響か、日中の気温は 27℃、湿度 80％とスーツ着用では少し汗ばむ陽気でした。

初日は、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター劇場棟にて開会のセレモニーの後、基調講演として首都大学東京の星旦二名誉教授による、「児童生徒が身につける長寿の秘訣」と題する講演を聴講しました。重要なことは、

①口腔ケアを大切にし、やや小太りでコレステロールを高めること。

②子供たちの望ましい生活習慣の確立や充実した学校生活のためには、子供と親がともに遊ぶこと。

③かつて健康長寿県であった沖縄県の平均寿命が相対的に低下している背景に住宅のカビや室内喫煙による閉塞性肺疾患死亡率の改善をすること。

と長年にわたる追跡調査のデータを基にユーモアを交えて話されました。

２日目は、領域別研究協議会の中学校部会に参加いたしました。東京医科歯科大学和泉雄一名誉教授を座長に迎え、歯周病の基礎知識、治療方法、全身への影響、歯周病への入り口となる歯肉炎の罹患率が中学生で急増している事への危惧についてご講演いただいた後に、2 つの講演が行われました。第一演者は、那覇市立上山中学校前田比呂也校長で、実りある歯科保健活動実践のためにユニークな取り組みが紹介されました。むし歯治療完了書の提出を体育の評価に入れる。夏休み前の三者面談、修学旅行前の保護者との面談で受診を呼びかける。毎週水曜日は部活休みの日で、この日に受診を促す。グラフ化した見やすい保険だよりで生徒の関心を高める。良い歯に選ばれた生徒の笑顔の顔写真とともにインタビューをして、保健室前の掲示板に載せる・・・など。保健委員の活動は、年間を通じて治療率向上を 1 番に掲げている。第二演者は、埼玉県羽生市立東中学校渡邉マユコ教諭、皆川麻子養護教諭で、学年ごとにテーマを違えて「自分の口腔を自分でよく観察する」ことで、口腔衛生に対する興味を高めること。週一回のフッ素洗口の実施。学校歯科医による歯科講話、歯科衛生士・管理職による個別ブラッシングの実践。給食時の歯みがきタイム、部活の試合遠征時の歯みがきの実施などが紹介されました。また、学級担任、部活動顧問と家庭との連携で、う歯の早期治療を促進した結果、平成 29 年度の 4 月のう歯治療率が 100％であったことが報告されました。

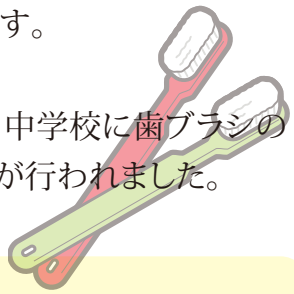
各学校共に、学校現場は学力向上、生徒指導、不登校対策など様々な課題を持っているが、その課題に優先順位をつけるのではなく、自己実現、自己肯定感、成功体験をキーワードに、学校歯科保健活動を総合的に学校教育に位置付けることで課題解決に取り組もうとする姿勢が見て取れた。

平成30年度 練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会

佐藤　和典

練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会が、練馬区教育委員会の方々の出席のもと9月27日及び10月11日に開催されました。

この会は、校長と教育委員会・学校歯科医が直接懇親することで、活発な意見交換を行い、お互いの信頼関係を強化し、今後の学校歯科保健の向上に役立てる有意義な会で東京都では練馬区学校歯科医会だけで行われています。



本年度から「歯と口の健康推進事業」の一環として区内の小・中学校に歯ブラシの贈呈が行われることなり、初年度は3800本が贈呈され贈呈式が行われました。

小学校長の研修会では

演題１　「給食後の歯みがきを実施する際の具体的な方法について」
練馬区学校歯科医会　学術・HP担当　西　克昌理事

演題２　「事故発生、受傷後の処置・外傷予防と安全教育について」
東京都学校歯科医会　会計担当理事　高橋　裕幸先生

中学校長との研修会では

演題１　「給食後の歯みがきを実施する際の具体的な方法について」
練馬区学校歯科医会　学術・HP担当　古田　裕司理事

演題２　「事故発生、受傷後の処置・外傷予防と安全教育について」
東京都学校歯科医会　会計担当理事　高橋　裕幸先生

以上の講演が開催され参加者の研修が行われました。

乾杯の挨拶をする山中宏三会員

懇談中の先生方

第37回練馬区学校保健大会

名古谷　昌宏

平成30年12月6日（木）練馬区文化センター小ホールにおいて、第37回練馬区学校保健大会が「みんなで育てよう心と体もすこやかな児童、生徒」の題で開催されました。

大会は、草柳練馬区学校保健会副会長の開会の辞で始まり、高野博文会長挨拶、来賓挨拶の後、学校保健関係表彰受賞者の紹介がありました。学校歯科関係では、東京都教育委員会表彰（健康づくり功労）で豊玉東小学校の治田昌彦先生、練馬区民表彰では、大泉小学校の木村昭彦先生、豊玉第二小学校の古田裕司先生が紹介されました。

次に、小中学校食育健康部会による「小中学校における食育の取組」の演題で研究発表があり、演者は北原小学校、豊玉南小学校、光が丘第三中学校の栄養士さんでした。

研究成果としては、主食に「ごはん」を食べている児童の方が、「パン」を食べている児童より、主食・主菜・副菜を組み合わせた、バランスの良い食事をとっているとの事です。

中学校部会では、「自分で作る朝ごはんコンクール」の継続の必要性を報告されました。

次に、特別講演は一般社団法人日本眠育普及協会代表、橋爪あき先生による「人生の3割をしめる睡眠が、残り7割の運命を決める」の演題で行なわれました。橋爪先生は10代から発症していた睡眠障害により睡眠の大切さを痛感し、独学で障害を克服した経験から、上記協会を設立して講演や執筆、メディアでの広報活動、睡眠文化の普及に励んでいられます。

日本人の睡眠事情は世界最悪（短眠、睡眠負債）等、有意義なお話をされました。

最後に、小田和枝練馬区学校保健会副会長の閉会の辞により大会を終了いたしました。

草柳会長の挨拶

区民表彰を受ける古田裕司会員

学校紹介

練馬区立石神井西小学校、平成28年には開校１４０周年記念式典を挙行しました練馬区内で第３番目に開設した伝統ある小学校であります。明治7年に本立寺を仮校舎として開校し、江戸時代からの産業道路で、石神井村を通過する青梅街道に面した交通のかなめに位置する由緒ある地域に存在しています。卒業生の中には、古くからの住民の子孫も多くみられるのも特徴の1つであり、地域の中に歴史と共に歩み続けております。現在、児童生徒数は1年生から６年生まで、またわくわく学級をふくめて414名の児童・生徒が在籍しております。校内の学校通信として「石西通信」を発行・行事報告が拝見できます。学校保健委員会には、学校医・学校薬剤師・栄養士・ＰＴＡ役員も出席しており、給食も校内にて調理しております。現在の山口義一校長先生の学校方針は、「笑顔あふれる学校」喜びあふれる・元気あふれる・優しさあふれる・開かれた学校をビジョンとして掲げております。

学校歯科医　　草柳英二

教育目標

たのしく学ぶ子
はつらつと活動する子
ともに歩む子

目指す学校像（ビジョン）

「笑顔あふれる学校」～感動の共有～
「わかるようになった」「できるようになった」喜びにあふれる学校
体も心も鍛え、生き生きとした元気あふれる学校
人とのかかわりを大切にし、仲良く助け合う優しさあふれる学校
家庭及び地域社会に信頼される開かれた学校

所在地

東京都練馬区関町 1－1－5

沿　革

明治　７年　現関町北４丁目本立寺を仮校舎とし、分校として開設
明治　９年　関村最勝寺を校舎とし、豊関学校として独立（開校記念日７月 10 日）
明治 35 年　北豊島郡石神井村立石神井西尋常小学校設置
昭和 16 年　東京市石神井西国民学校と改称
昭和 22 年　東京都練馬区立石神井西小学校と改称
昭和 33 年　校歌制定
昭和 42 年　特殊学級開設
昭和 51 年　開校 100 周年記念式典挙行
平成　８年　開校 120 周年記念式典挙行
平成 13 年　開校 125 周年を祝う会（125 祭集会）
平成 18 年　開校 130 周年記念式典挙行
平成 23 年　開校 135 周年記念式典挙行
平成 28 年　開校 140 周年記念式典挙行

青梅街道標識

学校紹介

練馬区立大泉学園小学校

練馬区立大泉学園小学校は、今年度開校 50 周年を迎え、2018 年 12 月 1 日に記念式典・祝賀会が行われ、私も学校歯科医・評議員として参加しました。大泉学園小は、母体校の大泉第三小が当時 1300 人を超えると共に、学区域が広く学園通りを越えて通学する児童の交通事故も懸念されるため、地元の強い要望で昭和 43 年（1968 年）4 月 1 日に開校しました。建設当初は、仮称練馬区立第五小学校でしたが、地元父母より、町名の大泉学園にしたいという強い要望で、大泉学園小となったそうです。それで大泉第一小～第六小の中に、第五が無いのです。

現在、校長は第 13 代の小池智彦先生です。学校歯科医は、初代の外川滋先生が 39 年務め、私は 2 代目で今年 11 年目です。学校歯科医・評議員として関わって感じることは、大泉学園小は、すごく地域の皆様に愛され、支えられているということです。都会で核家族化が進むと徐々にそのような関係が薄くなるのが心配ですが、大泉学園小は、地域住民の大人たちがしっかり見守っていてくれていると思います。学校の教育目標は、「心ゆたかな子ども」「よく考える子ども」「力を合わせる子ども」「健康で明るい子ども」ですが、学校歯科医として健康診断、歯科指導、朝礼等を通して感じることは、みんなとても明るくて元気で心優しい子どもたちです。これも、校長ならびに教職員と PTA、地域住民の思いが一つになって子供たちを育てているからだと思います。

歯科保健活動としては、8 年前に全国小学生歯みがき大会参加を開始し、7 年前より朝礼で講話をさせていただくようになりました。そして現在は、学校経営計画の中に「学校歯科医と連携した歯みがき指導」という項目を入れてくださり、その一環として、今年度、養護教諭の協力で、10 月に歯垢染色による歯みがき指導をした 4 年生を対象に、12 月の 1 週間を歯みがき週間として給食後の歯みがきを行いました。すると、「予想以上に皆楽しそうに歯みがきをしている」と校長先生からの感想でした。その様子が HP に掲載されていました（写真）。
この活動が第一歩として、児童の健康のために拡大していくことを願っています。

学校歯科医　　南　誠二

「学校歯科医に携わって」

練馬区立開進第四小学校　穂坂　康朗

平成30年度より、練馬区立開進第四小学校の学校歯科医に就かせて頂きました。思えば、私がまだ大学病院勤めで父（正典）がまだ健康であった頃、よく父の話の端々に「学校歯科医」という言葉が出てきて、歯科界にはそういう分野もあるのだなと漠然と感じていたのを、思い出します。

私は大学卒業後、大学院を経て慶応義塾大学病院と約20年以上病院勤めをしており、主に歯周病治療を専門に仕事をしてきたため、小児の治療に関わる機会はほとんどなく、今まで過ごしてきました。６年前に父の後を継ぎ開業医として仕事をするようになってからは、お子さんを診る機会も増えて、嫌だの苦手だのと言ってはおれず、この不愛想な私も満面の笑みをたたえて日々取り組んでいる次第ですが、開業した年齢も遅く、まさか学校歯科医の仕事をさせて頂くことになるとは思っていませんでした。会長の草柳先生からお話を頂いた時には「今更私に務まるだろうか」と悩みましたが、父が歯科医師人生の中で重きを置いてきた仕事でもありますし、父が練馬区学校歯科医会にお世話になった恩返しを少しでもできればと考えて、お受けすることにしました。

最初の歯科健康診断は、生徒さんもそうであったでしょうが、私もそれ以上にドキドキで臨みました。大学病院時代にももちろん中高生の歯科健康診断は経験していましたが、一人で500人近い小学生と対峙するのは初めてでしたので、それはもうバタバタでした。それでも半日二日間で何とかこなしましたが、見慣れない混合歯列や癒合歯に悩まされ、その疲労感といったら！初めて500人もの小学生の口腔内を拝見して感じたのは、矯正をしている子もいる一方で、かなりの歯列不正の子もいるということ。病院にいたころの健康診断は、私立学校だったのであまり気づきませんでしたが、公立の小学校だと家庭環境も様々でしょうから、そういった違いが比較的生じやすいのかなと思い、そのような「差」がなく、皆が同じレベル（むしろ高いレベル）の治療を同等に受けられる社会になると良いなと感じた、初体験でした。

先述しましたが、私は歯周病治療を主軸として治療を提供しておりますが、歯周病の予防や再発防止には、日常のメインテナンスが不可欠です。その方法を、これから大人になっていく彼らにも早いうちから習慣づけてもらい、咬合も含めた健康な口腔を生涯維持していってもらうために少しでも貢献できたら良いと思います。

学校歯科医に就任して

練馬区立大泉第一小学校　佐藤　公男

平成30年４月より望月兵衛先生の後任として、大泉第一小学校に就任しました29班佐藤公男です。

大泉第一小学校、昭和21年設立の歴史ある小学校であり、そこの歯科校医に就任しました事を光栄に思っております。

私は、保育園の嘱託医の経験しかなく、学校歯科医になって驚いたことは、春と秋の歯科健康診断だけでなく、歯垢染色（染め出し）・う蝕活動試験・保健委員会・就学時健診・学校長との研修会等学校歯科医の職務の多さでした。

最近の子供は、「子供のむし歯は親の責任」という風潮が浸透したせいなのか、う蝕の本数が昔より減ってきている事は保育園の嘱託医をしていた頃より感じているところであります。

う蝕等口腔疾患の予防と早期発見・早期治療に、努めたいと思っております。

今後とも、諸先生方の御指導をいただきながら頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

学校歯科医になっての感想、抱負

練馬区立大泉南小学校　吉川　剛太

この度、2018年11月より大泉南小学校の学校歯科医となりました吉川剛太です。簡単自己な紹介をしたいと思います。臨床研修医を日本歯科大学、その後神奈川歯科大学成長発達歯科学講座矯正科大学院、非常勤講師を経て、2012年に父の後を継ぎ、よしかわ矯正歯科の院長となりました。院長になり七年目になりますが、当初は不慣れなことも多く、日々の診療だけをこなすだけの日々が続きました。ようやく去年頃から、落ち着いてきたかなと思います。新たなシステムや、装置の導入も積極的に取り込んでいけるようになりました。先輩先生方の支援のおかげでここまでこれたと思っております。この場をお借りして、感謝の意をお伝えしたいと思います。

ありがとうございます。

大泉南小学校の学校歯科医となる前は、大泉学園保育園の園医を4年ほど務めさせていただきました。カリエスは、様々な統計を見てみますと、以前より格段に減っていると思います。しかし、一部の園児はネグレクトにより、カリエスが多数歯に見られ、すでに残根状態の園児もいました。テレビの報道でもネグレクトや虐待の問題が頻繁に報道されていますが、今後はこういった家庭環境に問題がある園児に対しての対策がとても重要であると思います。また先日、虐待やネグレクトについての講演を聴講しましたが、地域社会でフォローアップしていくことが必要であると痛感いたしました。歯科健康診断時には、疑いのある生徒に対してご報告できればと思っております。

また、先日就学時健診を行ったのですが、不正咬合と思われる生徒を多く健診いたしました。矯正治療の考え方は様々ですが、不正咬合の発現原因は、遺伝的要因と環境的原因に大別でき、環境的原因の中には、口腔習癖・鼻咽腔疾患•顎関節症・口呼吸・咬合干渉など多岐にわたる問題があげられます。形態面のアプローチだけでなく、機能面のアプローチも必要だと思っております。口腔周囲の機能的問題は、成長発育を阻害し、不正咬合を引きおこし、また治療を行う上で妨げとなります。問題がある可能性のある場合には、早期治療が将来的に長期安定性のある治療結果をもたらすと考えられます。私は、矯正医なのでより厳しく見てしまう所もあるのですが、早期に生徒・保護者の方に情報をお伝えできればと思っております。

今後、学校歯科医として、カリエス・歯周疾患だけでなく、不正咬合またネグレクトや虐待についても、しっかりとみていきたいと思っております。またまだ到らない点も多々あると存じますが、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

学校歯科医に就任して

練馬区立貫井中学校　黒田　耕太郎

平成30年より学校歯科医に就任いたしました黒田耕太郎と申します。

これまでは保育園の担当でしたが、中学校を担当することになり、多少の不安がありました。それというのも、埼玉で中学校の校長をしていた今は亡き義理の兄から、校内暴力や学級崩壊の話を散々聞かされていたからです。

しかし、春の歯科健康診断に行ってその不安は、一気に解消されました。生徒さんはみんな礼儀正しく、協力的で、養護教諭の伊藤先生に助けて頂きスムーズに健康診断を行えました。

学校保健委員会では、教職員と保護者、そして学校医・薬剤師が一丸となり、生徒が心身ともに健康な生活を送れるように尽力しておりました。

歯科巡回指導では、保健所の菊池さんが入念な準備の上、素晴らしい講演をしてくださいました。何より生徒さんたちは、おとなしく熱心に聞いてくれました。「永久歯は何本かな」というクイズでは、3日前に放映された「僕らは奇跡でできている」という歯科医師が出てくるテレビドラマから引用して、虫食いの歯(6+4+9+1+8)で28本と話しました。そのドラマを見ていた生徒さんたちからドッと笑いが起こるかと期待していましたが、その時もおとなしく聞いてくれていました。やはり保育園とは勝手が違うな、と痛感いたしました。しかし講演後、帰っていく私たちにたくさんの生徒さんたちが掛け寄ってきて、「ありがとうございました」と言って見送ってくれたことに感激いたしました。

健康診断の結果も、う歯の被患率•DMFT指数ともに東京都の平均と比較して、低い値でした。あとは、要治療歯がある生徒の受診率が、低いことが課題です。

今後、諸先生方のご指導の下、全力を尽くしていく所存でございます。

何卒よろしくお願い申し上げます。

執行部・学術委員会・ホームページ委員会

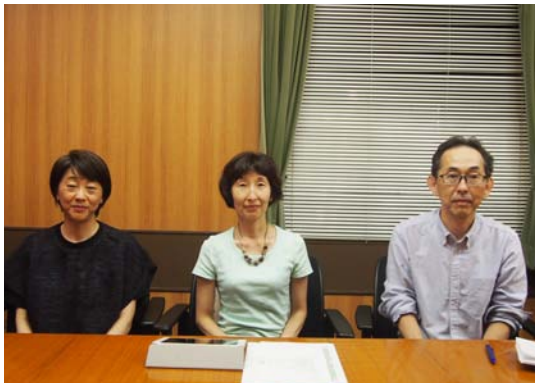
【執行部】

前列左より南、渡辺、中田、草柳、河奈、名古谷 役員
後列左より樋口、石井、古田、西、佐藤 役員

【学術委員会】

前列左より石塚、宮本、郷家 委員
後列左より瓦井、生田、西村 委員

【ホームページ委員会】



左より大塩、山室、浅見 委員

2019年度学校歯科医会大会　予定

日　付	場　所	大会名
	新潟市	第70回関東甲信越静学校保健大会
10月17日(木)	山口市	2019年度全国学校保健安全研究大会
18日(金)	〃	〃
11月21日(木)	さいたま市	第83回全国学校歯科保健研究大会
22日(金)	〃	〃
12月　5日(木)	練馬区	第38回練馬区学校保健大会
2020年 2月　27日(木)	文京シビック	第53回東京都学校歯科保健研究大会

練馬区学校歯科医会の先生方の参加をよろしくお願いします。

バックナンバー　練馬区学校歯科医会のホームページよりご覧いただけます。

2016年３月発行

2017年３月発行

2018年３月発行

編集後記

昨年１２月に全国学校歯科保健研究大会参加の為、沖縄に行ってきました。沖縄に行くのは、初めてなので首里城や美ら海水族館にも行きましたが、沖縄ならではの食物を食べてみたいと、ラフティやゴーヤチャンプルではありきたりなので、山羊刺しを食べてみました。馬や猪は、食べた事がありますが、若い山羊で鮮度が良ければおいしいそうなので恐る恐る食べてみたら・・少し獣臭かったですが噛みごたえがあり美味しかったです。これからも、新しい事に挑戦してみたいです。
「練学歯だより」No.24をお届けすることが出来ました。お忙しい中、投稿を快くお引き受けいただいた諸先生には感謝申し上げます。また、ご指導・ご協力をいただいた練馬区学校歯科医会理事及び学術委員会の先生方には深く御礼申し上げます。
来年もNo.25を発行予定ですので、練馬区学校歯科医の先生方の御協力をよろしくお願いいたします。

佐　藤　和　典

平成30年度文科省は、１２才児におけるＤＭＦ指数0.74を発表しました。「治療から予防、むし歯から歯肉炎」と時流が垣間見られます。本会は、本年度から給食後の歯ブラシ推進事業の一環として毎年練馬区立小・中学校へ歯ブラシ約３８００本の寄贈を始めました。学校での取り組みが、児童生徒の口腔衛生・生活習慣の向上を図ると思われます。平成３０年９月発行の日学歯会誌１２４号に練馬区学校歯科医会学術委員会の「学校保健と給食後の歯ブラシのアンケート調査」「中学校における給食後の歯ブラシと歯肉炎について」の調査研究論文を掲載しましたので一読ください。「特別支援学級のアンケート調査」も現在、編集中です。

草　柳　英　二

練馬区学校歯科医会ホームページ
http://www.nerigakushi.tokyo

発行日　平成31年3月14日
発　　行　練馬区学校歯科医会
〒176-0012　東京都練馬区豊玉北6丁目5－13
ＴＥＬ　３５５７－００４５㈹
ＦＡＸ　３５５７－３５５３
発行人　草柳英二
担当理事　佐藤和典

印刷所　有限会社 かどや印刷
〒177-0042　東京都練馬区下石神井5－1－37
ＴＥＬ　３９９７－０３７０
ＦＡＸ　３９９５－０５９４

SUNSTAR

増えつづける 大人のう蝕を防ぐ！

う蝕 徹底予防
二次う蝕
根面う蝕

歯周病（歯肉炎・歯周炎）予防

口臭予防

サンスター史上 最大濃度フッ素 **1450ppm配合**

大人のためのう蝕予防ハミガキ

BUTLER

バトラー デンタルケアペースト

医薬部外品　薬用ハミガキ

販売名：バトラー薬用ハミガキD

［内容量］70g　［香味］ハーブミントタイプ　［患者様希望価格］1本500円（税抜価格）　＊6歳未満のお子さまへのご使用はお控えください。

商品についてのご質問・ご不明な点は下記へお問い合わせください。

サンスター株式会社　〒569-1195 大阪府高槻市朝日町3番1号 TEL／072-682-4733 FAX／072-684-5669

Ⓡ登録商標。BUTLERは登録商標です。

安全と安心を安定してお届けします !!

KOSAKA DENTAL GLOVES -Powder Free Type

［特長］
歯科用手袋として開発された
コサカデンタルグローブは、少し厚手で丈夫な
パウダーフリータイプです！
特にリーマーやファイル作業時に指先を巻き込まず
根管治療がすこし楽になります。

昭和大学歯科病院採用品

コサカデンタルグローブパウダーフリー

コサカデンタルグローブパウダーフリー

■ サ イ ズ ：XS・S・M・L
■ 包　　装 ：100 枚入・左右兼用・未滅菌
■ 届 出 番 号：13B3X00551000005
■一般的名称：歯科用手袋
■一般医療機器
Made in Malaysia

製造販売元
総合歯科医療商社
株式会社 コサカ
〒176-0013 東京都練馬区豊玉中 2-18-14
TEL 03-3557-4111（代表）
http://www.kosaka.co.jp/E-mail:dental@kosaka.co.jp

姉妹製品

コサカデンタルグローブパウダーフリー
補綴用タイプ（薄手）

コサカデンタルグローブ ニトリル
■：届出番号：13B3X00551000006